

平成 29 年 3 月の解説（週間天気予報）

【3 月の天候状況】

上旬は、本州付近は高気圧と低気圧が交互に通過し、旬の後半は冬型の気圧配置となりました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、旬の後半を中心に気温が低くなりましたが、低気圧の影響が小さかったため、西日本を中心に降水量が少なくなりました。沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、10 日は沖縄付近で前線の活動が活発となったため、八重山地方で大雨となりました。

中旬は、北日本から西日本にかけては、大陸からの高気圧に覆われて晴れた日が多く、北日本日本海側の旬間日照時間の平年比は 174% で、3 月中旬としては旬の統計を開始した 1961 年以降で 1975 年と並んで最も多くなりました。旬の中頃と旬の終わり頃は、気圧の谷や低気圧の影響を受け曇りの所が多く、雨の降った所もありましたが、本州付近では低気圧の影響が小さかったため、降水量は少なくなりました。一方、沖縄・奄美では、短い周期で低気圧や前線の影響を受けたため、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、日本の南海上を低気圧が数日の周期で通過し、低気圧の通過後は大陸からの冷涼な高気圧が本州付近を通過しました。このため、全国的に天気は数日の周期で変わり、東・西日本、沖縄・奄美の気温は低くなりました。特に、25 日～27 日にかけては、本州の南海上を発達しながら低気圧が通過し、北からの強い寒気が流れ込んだため、東日本から沖縄・奄美にかけての広い範囲で天気が崩れ、関東甲信地方の山地を中心に大雪となった所がありました。

月平均気温は、西日本、沖縄・奄美で低かった一方、北日本では高く、東日本では平年並でした。月降水量は、東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本、東日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北・東・西日本で多く、沖縄・奄美では平年並でした。降雪の深さ月合計は、北日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、東日本日本海側では平年並でした。月最深積雪は、北日本で少ないところが多くなりました。

【3 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 6 ポイント高い 76% でした。各地方の適中率は、全ての地方で例年値より高くなり、特に北海道地方では例年値より 16 ポイント高い 81% でした。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.6 小さい 2.0 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、特に北陸、近畿、中国の各地方で 1.0 小さくなりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.6 小さい 1.6 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値より小さくなり、特に東海、近畿、中国の各地方で 0.8 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5 月の週間天気予報の利用にあたって】

5 月は、日本付近が移動性高気圧に覆われて、広い範囲で晴れる日が多くなります。一方で、日本の南海上に前線が停滞するようになり、例年だとこの時期に沖縄・奄美は他の地方より一足早く梅雨に入ります。この前線が本州南岸付近まで北上して停滞すると、西日本や東日本でも曇りや雨の日が続くことがあり、時には大雨となることもあります。天候に左右されやすい屋外の活動や行事を準備される際は、最新の週間天気予報をご確認ください。